



「長く生きる」とはどのようなことなのだろう

# エイジフレンドリーシティ(高齢者にやさしい都市) の実現を目指した行動計画の策定について

2020年2月21日  
秋田市福祉保健部長寿福祉課  
エイジフレンドリーシティ担当課長  
古木 実菜子

# 秋田市について

人口：307,403人(2019年12月31日現在) 秋田県の人口の約3割

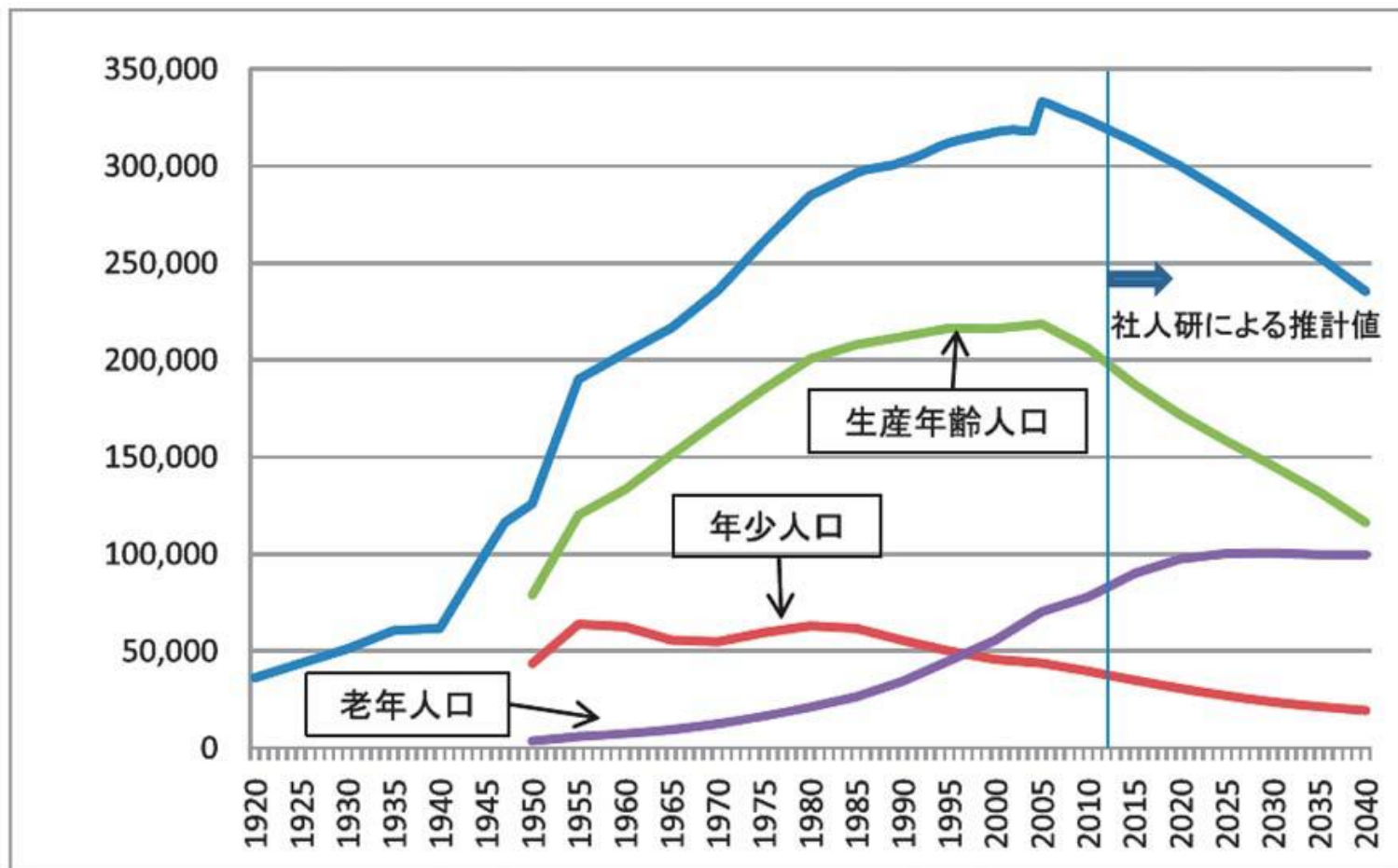
面積：906.07km<sup>2</sup>

就業者の8割以上が第3次産業に従事



# 秋田市の人口

総人口と年齢3区分別人口の推移 (秋田市人口ビジョン(2016.3)より)



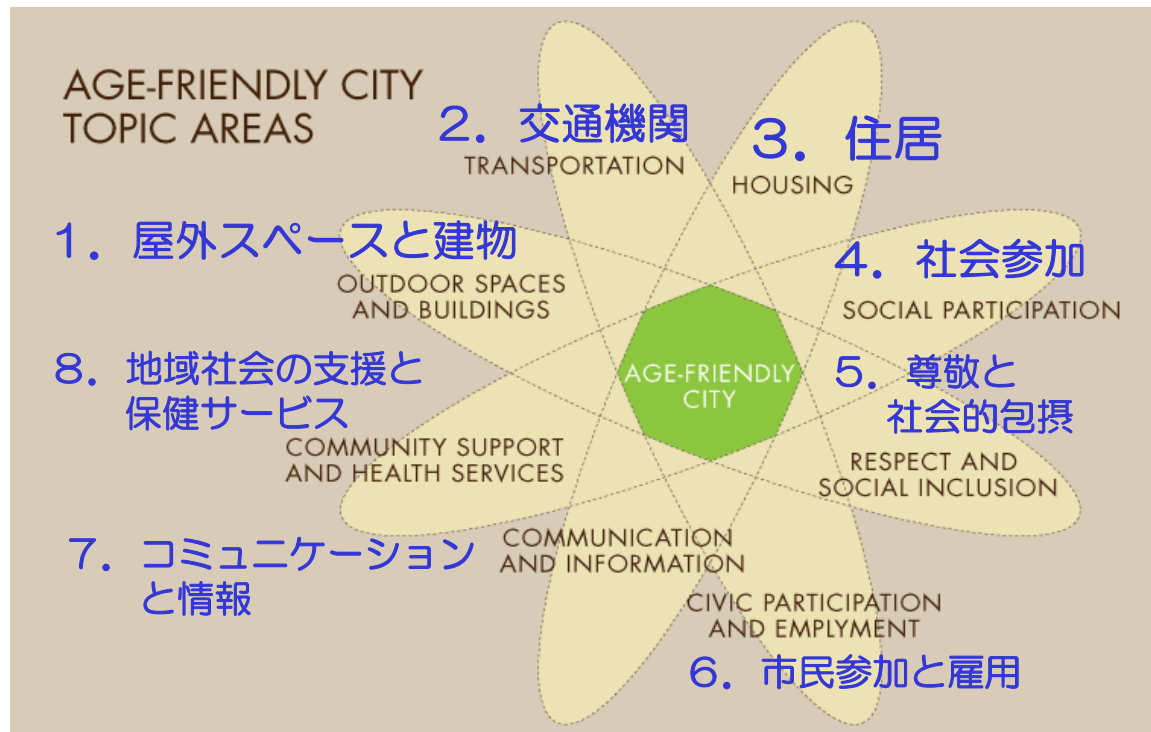
※年少人口:15歳未満 生産年齢人口:15歳以上65歳未満 老年人口:65歳以上

※2010年までの総人口は国勢調査および秋田市情報統計課推計人口より作成

※2010年までの年齢3区分別人口は国勢調査より作成

※2015年以降は社人研「日本の地域別将来推計人口(2013年3月推計)」より作成

# エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）とは



## 「高齢者にやさしい8つのトピック」

- ・2007年、世界保健機関(WHO)が提唱した、世界的な高齢化への対応として、アクティブエイジングを促進する都市環境についての概念
- ・エイジフレンドリーシティの実現には、都市環境に関する8つのトピック(上図)について検証しながら、まちづくりを進める必要がある。

# 導入の背景

2009年

市長公約としてエイジフレンドリーシティ構想の推進に着手

高齢者にやさしい都市を目指すことについて、市民に対しビジョンを提案

## エイジフレンドリーシティを目指す理由

- ・ 高齢者の健康と福祉の増進は社会全体に有益
- ・ 実際には「高齢者対策」は他の年齢層に負担がかかるイメージ
- ・ 高齢者と高齢化に対するイメージの変革、社会システムの再構築が必要



- ・ 高齢者自身が輝ける場づくり
- ・ 「支えられる側」から「支える側」へのシフト
- ・ 支えが必要になっても誰もが尊厳を持って生きられる社会づくり



高齢になっても地域を支える側として活動、活躍でき、支えが必要となってもその人らしく、いきいきと暮らせるまちの実現を目指す

# 84のチェックリストを用いた庁内勉強会

庁内勉強会では、WHOが作成した84のチェックリスト項目全てに対して、秋田市がすでに行っていた各種調査や、統計データ等を利用して、定量的なニーズ分析を実施し、報告書を作成。

1 屋外スペースと建物	2 交通機関
<ul style="list-style-type: none"><li>□ 公共エリアは清潔で心地良い。</li><li>□ 屋外の座れる場所と緑地は数が十分あり、よく整備され、安全である。</li><li>□ 歩道はよく整備され、障害物がなく、歩行者が優先的に利用できる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>□ 公共交通機関の運賃は一貫性があり、明確に表示され、手頃である。</li><li>□ 公共交通機関は信頼でき、夜間、週末、休日を含め、本数が十分ある。</li></ul>
3 住居	4 社会参加
<ul style="list-style-type: none"><li>□ 費用が手頃で十分な住宅メンテナンスとサポートのサービスが利用できる。</li><li>□ 住宅改築のための選択肢と用品が利用でき費用が手頃で、業者は高齢者のニーズを理解している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>□ イベントや活動の開催場所は便利な場所にあり、アクセシビリティが高く、十分な照明があり、公共交通機関で容易に行ける。</li><li>□ イベントは高齢者にとって都合の良い時間に行われる。</li></ul>

# アンケート調査&聞き取り調査を行った 秋田市AFC構想推進協議会

庁内勉強会による調査だけでは検証しきれなかった項目について、さらに掘り下げて調査

## アンケート調査

(1) 対象者 3,000人

ア 65歳以上の高齢者(介護保険制度における要介護認定者を除き、要支援1・2の認定を受けた者を含む) 1,500人

イ 20歳～64歳の市民 1,000人

ウ 20歳～64歳の身体障がい者 500人

## 聞き取り調査

- ・高齢者 ・障がい者 ・高齢者を介護している家族
- ・サービス提供者(商工関係、福祉サービス提供者、民間サービス提供者等)
- ・一般市民、若年者

上記調査対象者(総勢149人)毎に6人から8人のグループを作り、面談方式で聞き取りを実施。



# 第1次行動計画策定まで

年	内 容
2009年	<ul style="list-style-type: none"><li>・市長公約としてエイジフレンドリーシティ構想に着手</li><li>・庁内関係課所室職員による<b>庁内勉強会</b>を開始</li></ul>
2010年	<ul style="list-style-type: none"><li>・<b>構想推進協議会・庁内連絡会</b>設置</li><li>・推進のための市民アンケート調査、聞き取り調査を実施</li></ul>
2011年	<ul style="list-style-type: none"><li>・構想推進協議会から市長に対し提言書を手交</li><li>・WHOグローバルネットワークへ参加登録</li></ul>
2012年	<ul style="list-style-type: none"><li>・第1次行動計画策定のため、</li><li>・<b>行動計画策定委員会・行動計画作業部会（庁内調整会議、庁内作業部会）</b>設置</li><li>・市民組織「エイジフレンドリーあきた市民の会」設立</li></ul>
2013年	<ul style="list-style-type: none"><li>・第1次行動計画策定</li></ul>



# 第1次秋田市 エイジフレンドリーシティ行動計画

## 【特徴】

行政と市民が協働して取り組む事項や、市民自身が一から企画・検討し、主体的に取り組む事項を定めた。

行政による計画 + 市民による計画

## 《基本理念》

市民によるワークショップ12回開催

高齢になっても  
地域社会で活動、活躍することができ、  
いきいきと過ごすことができる社会

## 【計画期間】

2013年度から2016年度



# エイジフレンドリーシティの都市性能評価

- ・エイジフレンドリーシティの概念と目指す社会像は抽象的に語られることが多くわかりづらい
- ・取組が多岐の分野にわたり、個々の事業や取組の目標値では全体が見えづらい



市が抱える課題と取り組むべき内容、見込む成果等を市民にわかりやすく伝えることが必要



2015年、エイジフレンドリー度を示す「**ものさし**」として、

**「秋田市エイジフレンドリー指標」を設定**

# 秋田市エイジフレンドリー指標（抜粋）

基幹指標（主観的指標）	基本方針	意識指標（主観的指標）	行動指標（客観的指標）	
自分らしく暮らす ことができている と感じている高齢 者の割合	安心安全で誰もが 集える屋外ス ペースと建物、 施設の整備を進 めます。	近所を安心して外出で できると感じている高齢 者の割合	1-1	秋田市公共施設のバリアフリー化率
			1-2	高齢者の交通事故発生状況
			1-3	特殊詐欺被害件数
あらゆる世代にとっ て住みよいまちで あると感じている 人の割合	交通機関の利便 性の向上をはか ります。	バスや電車などの交通 機関は便利で利用しや すいと思う高齢者の割 合	2-1	コインバス資格証明書交付率
			2-2	ノンステップバス、低床バス導入状況
			2-3	ユニバーサルデザインタクシー・福祉タクシー 導入状況
高齢者の住環境 を整備します。	現在の住環境に満足し ている高齢者の割合		3-1	高齢者世帯のうち高齢者等の設備（バリアフ リー化）の設置住宅の割合
			3-2	住宅リフォーム助成件数、年間リフォーム実 施比率
			3-3	介護保険制度における住宅改修件数
			3-4	サービス付き高齢者向け住宅戸数
高齢者の社会参 加をはかります。	余暇の過ごし方に満足 している高齢者の割合		4-1	過去一年以内に趣味・スポーツ・文化・生涯 学習などの社会活動に参加した高齢者の割合
			4-2	地域活動（地域での自治活動や市民活動）に 参加している人の割合
			4-3	大学で社会人向けに開催されている講座数
			4-4	1日20分以上の運動を週1回以上実施して いる人の割合
			4-5	高齢者が地域の身近な場所で集うことができ る場の数
			4-6	高齢者がスポーツ活動に参加している割合

# これまでの取り組み（第2次行動計画策定まで）

年	内容
2014年	・行動計画推進委員会設置
2015年	・秋田市エイジフレンドリー指標を設定
2016年	・第2次行動計画策定のため民間事業者アンケート調査実施 ・若手職員意見交換会、市民の集い、エイジフレンドリーパートナーの集いを開催 ・第2次行動計画策定
2017年	・庁内推進会議とその下部組織として庁内推進会議作業部会を設置
2018年	・エイジフレンドリーシティ推進戦略づくりワークショップ（中央地区）を開催

# 第2次秋田市エイジフレンドリーシティ 行動計画

## 1 基本理念

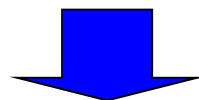
「心豊かで活力ある健康長寿社会」

## 2 計画期間

2017年度から2021年度の5年間

## 3 推進体制

- ・有識者による助言・提言（「秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会」）
- ・全庁的な連携（「エイジフレンドリーシティ行動計画庁内推進会議」）
- ・市民や民間企業・団体など、多岐にわたる主体の取組を促進



超高齢社会における広範な課題への対応

# 第2次行動計画の策定

庁内関係各課の連携により、より良い効果を生み出すことを目指す

行政、市民、民間事業者の連携を引き出し、重点的に取り組む

第2次秋田市エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）行動計画施策体系図

【基本理念】	【基本目標】	【4つの領域】		【重点施策】
<b>基本理念</b> 心豊かで活力ある健康長寿社会	目標1 安全・安心で誰もが快適に過ごせる屋外環境の整備	<b>領域Ⅰ 空間環境基盤</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・領域別施策1 中心市街地と6つの地域中心を核としたコンパクトなまちづくり</li> <li>・領域別施策2 地域の移動手段の確保</li> <li>・領域別施策3 安全・安心で、雪に強いまちづくり</li> </ul>	<b>領域Ⅱ 社会生活基盤</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・領域別施策1 住民主体のコミュニティ活動の創出と推進</li> <li>・領域別施策2 高齢者の多様な能力を活用した地域における支えあいの推進</li> <li>・領域別施策3 多様な生活支援サービスを利用できる地域づくりの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点施策1 産学官民一体で地域課題解決に取り組む“共創”体制づくり</li> <li>・重点施策2 地域資源を活用した多様な住民主体のコミュニティ活動の推進</li> <li>・重点施策3 経験や能力を発揮し、未来を支える担い手の育成と人材力の強化</li> </ul>
	目標2 交通機関の利便性の向上			
	目標3 安心して快適に住み続けられる住環境の整備			
	目標4 生涯を通じた生きがいくくりや社会参加の促進			
	目標5 あらゆる世代がお互いを認め合う地域社会づくり	<b>領域Ⅲ 産業・経済基盤</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・領域別施策1 超高齢社会をチャンスと捉えた新たなビジネスの創出・支援</li> <li>・領域別施策2 高齢者の活躍を総合的に支援する体制構築</li> <li>・領域別施策3 地域課題解決につながるコミュニティビジネスの推進</li> </ul>	<b>領域Ⅳ 教育・文化基盤</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・領域別施策1 生涯を通じた文化・スポーツ活動の推進</li> <li>・領域別施策2 多世代が交流し、支えあう地域づくり</li> <li>・領域別施策3 秋田に誇りと愛着を持つひとづくり</li> </ul>	
	目標6 高齢者の就業や市民参加の機会創出			
	目標7 高齢者の情報環境の整備			
	目標8 多様な生活支援サービスを利用できる地域づくり			

# AFC計画の意義

- ・AFCの計画対象は、土地利用や施設配置といった物的環境はもちろんのこと、社会的サービスの拡充やコミュニティ活動のプロモーション、高齢者の社会的参加の促進など、社会的な(無形の)対象を含むものである。
- ・サービス等の満足度だけでなく、土地利用や施設配置の望ましさについてもエイジフレンドリー指標によって、その性能を評価しようとする点にある。
- ・超高齢社会の社会的ニーズに対応するためには、このような都市の空間と社会のパフォーマンスを測定しながら進行するプランニングプロセスが有効かつ不可欠なものであるとの認識にある。

# 本計画の成果～高齢者コインバス事業～

## 高齢者の外出促進と社会参加、生きがいづくり支援

【事業開始】 2011年10月

【事業概要】 65歳以上の方が、コインバス資格証明書を見せて1回100円で路線バスを乗車できる制度

【効果】 利用しやすい料金設定や、使いやすさ等で高齢者の外出促進に効果があり、バス利用者が増加



- ・コインバス資格証明者発行率:64.63%  
(2019年9月末時点)
- ・年齢を段階的に引き下げ:
  - 2011年(事業開始時)70歳以上
  - 2013年 68歳以上
  - 2017年 65歳以上



# 高齢者コインバス事業+シニア映画祭

秋田市エイジフレンドリーシティ普及啓発事業

7月3日(火)上映 10:30~開演11:00  
11:30~開演12:00

7月10日(火)上映 10:30~開演11:00  
11:30~開演12:00

HACHI 約束の犬 (字幕版)

超高速! 参勤交代 リターンズ

コインバスに乗ってワンコインで映画を観よう!

7月17日(火)上映 10:30~開演11:00  
11:30~開演12:00

7月24日(火)上映 10:30~開演11:00  
11:30~開演12:00

最高の人生の見つけ方 (字幕版)

人生フルーツ

## シニア映画祭

会場 アルヴェ2F ルミエール秋田 全席自由

料金 コインバス資格証明書 ぞご提示の方は 500円(1席別)  
障がい者手帳 (65歳以上の障害者用の方)

その他の方は ..... 800円(1席別)

チケット 6月2日(土)からルミエール秋田で発売 (各回先着180名)

お問い合わせ ルミエール秋田 ☎018-884-7450

コインバス資格証明書、障がい者手帳  
を持っている65歳以上のかたは  
鑑賞料金 500円

コインバス + 映画



# 民間事業者との連携 エイジフレンドリーパートナーづくり推進事業

事業開始: 2015年度

銀行、ホテル、福祉美容室、スーパー、寺社、建設など107事業者が登録

高齢者や障がい者にやさしい取組を継続して行う企業や事業者等を「エイジフレンドリーパートナー」として登録し、民間サイドからの取組を推進

エイジフレンドリー  
な地域社会づくり



高齢者にやさしい取組を行  
う企業・事業者等を「エイジ  
フレンドリーパートナー」とし  
て登録



新たなシニア  
ビジネス創出  
のチャンス



地域の除雪ボランティア



ベンチの設置



# 事務事業評価と基幹指標による評価

## 第1次行動計画の評価（事務事業評価）

2013年度～2016年度の庁内におけるエイジフレンドリー関連事業の進捗状況をA～Dの4段階で評価。その結果、A評価（達成率100%以上）とB評価（達成率70～100%未満）を合わせて70～80%の目標値を達成

※主なエイジフレンドリー関連事業の取組状況（抜粋）

基本方針	取組・事業	指標	実績値				目標値	評価
			H25	H26	H27	H28	H28	H28
1	都市公園バリアフリー化事業	バリアフリー化した都市公園数	109公園	111公園	121公園	127公園	103公園	A
	融雪施設改良事業	箇所数	18か所	21か所	23か所	25か所	32か所	B
2	高齢者コインバス事業	資格証明書交付率	56.6%	57.7%	59.3%	60.8%	65.0%	B
	バス交通総合改善事業	マイタウンバスにおけるコインバス利用者数	62,102人	71,729人	76,236人	73,568人	66,244人	A
3	住宅リフォーム支援事業	リフォーム実施比率	4.4%	3.3%	2.9%	2.6%	4.5%	C
	生活支援ハウス運営事業	入居者数	20人	20人	20人	18人	20人	B

# 事務事業評価と基幹指標による評価

## 第1次行動計画の評価（基幹指標による評価）

### エイジフレンドリー指標における4つの基幹指標の評価

#### 【基幹指標1】

自分らしく暮らすことができていると感じている高齢者の割合

51.8%

#### 【基幹指標2】

あらゆる世代にとって住みよいまちであると感じている人の割合

74.4%

#### 【基幹指標3】

地域とのつながりがあると感じている高齢者の割合

56.1%

#### 【基幹指標4】

意欲的に社会と関わり、さまざまな活動に参加している高齢者の割合

地域活動 56.9%

# 計画の問題点

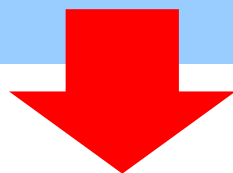
事務事業評価および基幹指標では、都市全体としては良い評価が得られたが、意識指標においては2割程度の達成率となった。

## 【原因 1】

新規に立ち上げられたプロジェクトが、当課(長寿福祉課)主導のものに限られ、他部局において高齢者施策に関する新しい事業が立案されなかった

## 【原因 2】

第1次行動計画は、8つの基本方針に対して、庁内各課の既存事業を紐付けたのみで、民間企業者や住民の巻き込みが充分でなく、いわば行政主導の計画となっていた



これまで行政主導型の市政運営から脱却し、**行政、市民、民間**の三者協働によるまちづくりを目指す必要がある

# 改善の方策

## エイジフレンドリーシティ推進戦略づくりワークショップ

もう一度、原点に戻り「年を重ねても住み続けたいと思えるまちをみんなで作るためには、何が必要なのか」を**行政、市民、民間**が一緒になって考える、エイジフレンドリーシティ地区別戦略づくりを実施



中央地区における推進戦略(概略版)

# 推進戦略の今後の展開

## 【行政として】

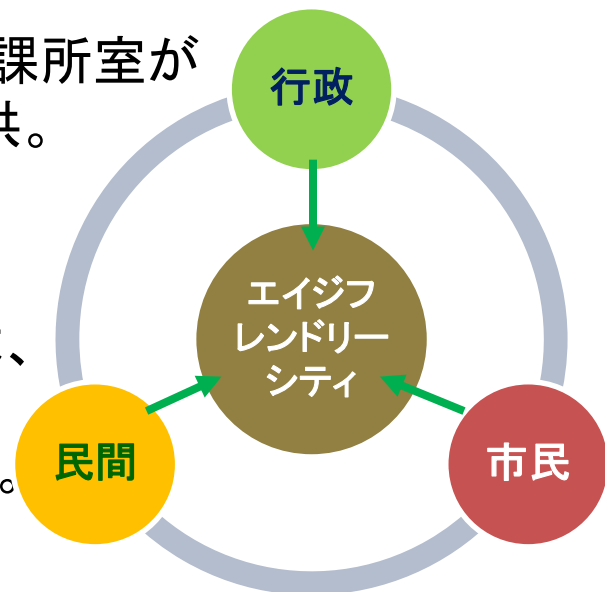
行政が主体となって実施すべきものについては、関係課所室が集まる「庁内推進会議」に報告し、関連部局に情報提供。

## 【民間事業者として】

民間事業者が主体となって実施すべきものについては、本戦略について広く周知し、特にエイジフレンドリーパートナーに対しては、今後の取組の参考としてもらう。

## 【市民として】

市民が主体となって実施すべきものについては、住民主体の「居場所づくり」などの参考としてもらう。



この推進戦略づくりワークショップをきっかけとして、「市民」「民間事業者」が、**恒常的にエイジフレンドリーシティに参画**する仕組みをつくり、三者がそれぞれの役割を発揮しながら取組を推進し、本計画の問題点の改善を図る

# WHOグローバルネットワーク参加都市の 先進事例都市に選出！



秋田市



バスク国、スペイン



ベルギー、ブリュッセル市



ディジョン、フランス



メキシコ、グアダラハラ



香港、中国



ロンコチェ、チリ



イギリスマンチェスター市



メルビル、オーストラリア



オタワ、カナダ



アメリカ合衆国ポートランド

Best 11  
世界833都市